

菊清会 オアシスみくり保育園 自己評価

## I 施設自己評価の趣旨

菊清会の理念は、「子どもの最善の利益を追求すること」「子どもの可能性を最大限保障すること」子ども中心とした保育です。この理念に基づいた保育が現場で実現するためには、保育者ひとり一人の実現に向けての努力が大切なことは周知のとおりですが、同時に、園の体制が、保育を充実することが容易な環境になっているか。保育者をサポートする制度があり、機能しているかどうかも大切です。

保育の質を問われるようになって久しくなりますが、私たちの現場ではようやく質に目を向けることができるようになってきました。それは、法人の理念が確立し、保育の方向性を定めることができるようになり、その理念を基に各保育園の園長をはじめ保育者が、自らの園の保育の方針と目標を作り上げることができるようになったことが大きな要因になっています。

ところが、園の目標に向かって保育をしているはずなのに、いつの間にか理念や目標を見失った保育をしてしまうことが起こってしまいます。ここに質が問われる原因があるのだと考えます。

保育の質が「子ども中心の保育」にあると学びましたが、大人の都合で保育をすることが増えてきた時に質の低下が始まります。

私たちは、評価という言葉をどうしても敬遠してしまいます。それは、出来ていないことが失敗、欠点といった負の部分指摘するととらえているからです。負を評価するならば未実施、未到達、失敗、欠点といったマイナス評価を挙げることになりますが、保育の質を評価するということは「子ども中心の保育」になっているかどうかを評価すること。理念に基づいた方針や目標に近づこうとする保育ができているかどうかを評価することになります。つまり、未実施、未到達や失敗、欠点といったことが明らかになることはこれからの改善点が見えてくることになります。

私は、この点に気づき 2012 年末から理念振り返りシートを始めました。その振り返りシートはチームでの振り返りシートとなり、ひとり一人の職員が自らの生き方を含めた保育への関わり方を考えることができるようにキャリアパス制度を作成するといった支援体制を作っています。

私たちはこの自己評価を、定期的に行い結果を職員全員で共有すること。結果を踏まえた改善を皆で行うことで保育の質を向上させるようにしていく必要があります。その上で、保護者や地域の方々に公開

における保育の内容や取り組みに理解を得ていくことが大事になっていきます。

### 【菊清会の理念】

家庭と同じように生活することができる保育園を通じて平和な世の中を創造するために、子どもたちが人との繋がりを大切にしながら、毎日明るく楽しみながら生きていく自立した力をそれぞれで身につけていけるようにする。

### 【保育方針】

日々の活動に当たっては、子ども一人ひとりを大切にするために「子どもが人的、物的環境に主体的に関わり、環境に内在する遊びを子ども自ら（主体的）見つけ出して工夫して、伝承する保育」を基本とします。

こうした子ども主体の保育を援助し支え実現するためには「子どもが、子どもらしく、大人が、大人らしく創意工夫が日々の保育に醸し出されることで子どもたちの心と身体に「生きる力」「創造する力」を蓄えたいと願っています。それらの力を働かせるためには、一人ひとりが自分を発揮できなければなりません。自分を発揮するためには、人と人との関係も上手に作り上げなければなりません。

「私は私、でも、私はみんなの中の私。」自己を十分に発揮しながら他との協調することができる、そうした調整能力を持った自我を育てることも、保育園の大切な使命と考えます。

### 【保育ルール】

子どもの気持ちをまず尊重する。

### 【目指す子ども像】

- ・自分の可能性を信じていることができる子ども。
- ・正直な子ども。
- ・何事にも興味が持てる子ども。
- ・自ら約束を守ることができる子ども。

## オアシスみくり保育園の方針と目標

小規模保育園ならではの、一人ひとりに寄り添い個々の発達に応じて柔軟な保育を行います。

子ども達も私達保育者も、みんなが居心地のいい場所にしていきます。

### ☆一人ひとりを大切にした保育

一人ひとりに寄り添いながら、信頼関係を築き、子ども達が自分を素直に表現できる場である事を目指します。大切にされる事を感じる事で、自己を発揮し生活してほしいと思います。

### ☆生きる力を育みます

生まれた時から生きる力がある子ども達。食べる事・動く事・コミュニケーションをとる事等いい人間関係の中で育てています。

やりたい・やってみる、出来た時の成功体験を重ねながら、自分でできる事を増やしていきます。

### ☆人を好きになり、一緒に楽しいと思えるように

初めて家庭から離れ、保育園という集団生活に入る子ども達です。視野も行動範囲も成長と共に広がっていく中、同じくらいの友だち、年下・年上・様々な大人に出会い、生活しています。

そんな多様な人との関係の中で色々な人がいる事を知っています。

その出会いをいい出会いとなるように、人との関わり方や楽しさを学んでいけるようにしていきます。

## II 施設自己評価と保育の関わり

私たちは、保育所保育指針に基づき、園独自の保育理念と保育方針をもとに保育目標を設定して創意工夫しながら日々の保育を実践しています。

施設自己評価では、保育者が特に大事にしてもらいたい保育への想いや具体的な項目を提示し、評価をするものだけではなく、園に関わるすべての人たちが保育の大切さと保育の質の向上に取り組む姿勢を理解していけることを目指します。

### 【自己評価について】

日々の保育活動を振り返り自己評価するには、保育の改善や専門性の向上のために欠かせないことです。保育所保育指針には

ア 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

イ 保育士等による自己評価にあたっては、次の事項に留意しなければならない。

(1) 子ども活動内容やその結果だけではなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも十分配慮すること。

(2) 自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合いなどを通じて専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にすると共に、保育園全体の保育の内容に関する認識を深めること。

と書かれています。改善のための評価には、評価の視点として「子どもの育ちをとらえる」「自らの保育をとらえる視点」の二つが含まれています。このような観点を良く理解した上で各自自己評価をしてください。

### 【記入・評価の方法】

(1) A 6月の時点 B 11月の時点 C 2月の時点で達している場合は、□に○をつけ達していない場合はレ点を付け、具体的な改善点を記入し今後の保育に生かしてください。

(2) それぞれの内容が理解できない場合は、「望まれる保育者像」「見守る保育」(藤森平司氏著)などを読み込んで理解してください。

(3) 園長に提出してください。

(4) 園長確認後、返還しますのでクラス、年齢などで自己評価をしてください。

(5) クラス・年齢の自己評価を基に、保育園全体の自己評価を全職員で行います。

## 1 子どもの権利について

子どもの権利を守ることは、大人の責任です。近年、多文化社会、地域の崩壊、家族形態の多様化、子ども自身の特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子供に寄り添う保育を展開することが必要になっています。

子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、子どもにふさわしい生活時間や生活リズムがつかれるよう援助し、子ども自身が多くの人から大切な存在として受け止められていると感じ、自己を十分発揮し、自信をもって安心して生活できる環境を提供することが大切です。私たちは、保育の質の向上に取り組む上で、子どもの権利を守ることを一番大切にし、保育内容すべてに関連することと考えています。

「子どもが何を求めているか」知ろうとしている。	
A○	
B○	
C○	
子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	
A○	
B○	
C○	
子どもや保護者の気持ちを傷つけるような職員の言動・保育放棄・虐待・無視・差別等を禁止する職員行動規範を定めている。	
A○	
B○	
C○	
むやみに制止や禁止する、子どもの言葉や身振りなどを無視する、呼び捨てやあだ名での声掛け、不必要な大きな声、否定的な対応などしていない。	
A○	
B○	
C○	
職員は、一人ひとりの子どもの行動や欲求に、わかりやすい言葉で穏やかに個々の子どもに語りかけ、応答的に関わっている。	
A <input checked="" type="checkbox"/>	園内での話合を行い、一人ひとりの欲求方法など職員間で把握し、個別対応が必要な子にはできるようにしていった。
B○	
C○	
一人ひとりの子どもの生活習慣や文化などの違いを知り、それを認め合う心を育てるように努めている。	
A○	
B○	
C○	

おむつ交換やトイレ、着替え、プール遊びなどの際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。

A 職員を通常より多くして配慮するように、日々職員配置には気をつけてきた。

B

C

## 2 職員に求められる資質

保育の質の確保・向上を実現する基本は、園に働く保育者一人ひとりの資質です。保育者が子どもを大切に思い、日ごろから子どもと心が通い合うようにすることが大切です。子どもが人と関わりあう心地良さを味わい、安心して気持ちよく過ごし自ら主体的に活動するためには、保育者は、子どもの身体の発達と心の育ちを大切にし、子どもの気持ちに応え、手を携え、言葉をかけ、共感しながら、一人ひとりの存在を認めていくことが大切です。そのような職員の関わりにより、子どもが人・物・自然などに触れ、興味・関心を広げ、様々な心情・意欲・態度を身につけ、生きる力の基礎を培っていくことができるようになります。

また、子どものために保護者支援や地域の子育て家庭に対する支援を行うことも重要な役割です。子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことにより、保護者自身が、子育てに自信を持ち、子育てを楽しんでいることができるようになります。日常の保育の中で、子どもとの関わり方や子供の成長・発達について専門職として具体的な助言をすることや行動見本を見せることもまた、在園児の保護者や地域の子育て家庭の支援につながります。

このように、子どもの保護者のモデルとなる人権感覚や倫理観をもって保育にあたり、常に改善に前向きに取り組む保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

私たち保育者は、子どもを受容する温かい心を持って子どもに全力で愛情を注ぐことのできる人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重でき、子どもや保護者から信頼され尊敬される職員であって欲しいと考えています。

保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かしており、向上心を持って取り組んでいる。

- A○
- B○
- C○

「望まれる保育者像」を保育者の目標として念頭に置き、保育者としてのあるべき姿に近づこうとしている。

① 施設長・主任は、施設の課題を自覚し、職員に対し指導や助言を行うなど幹部としての役割を果たしている。

- A 職員とは、自分の思いや考えなどを含めて話をしてきた。もっと職員が分かりやすく理解できるように勉強していききたい。
- B
- C

② 保育者は、倫理観・人間性、保育園職員としての責任感を持ち保育に従事している。また、経験による役割分担を心得て後輩の指導を行っている。

- A○ 保育の中で責任を持ち、全員で周知できるように、互いの仕事量を知り、役割を伝え合う事ができた。
- B○
- C○

子どもと関わることを喜び、子どもと一緒に楽しみながら「見守る保育」を実践している。

- A○
- B○
- C○

乳幼児の発達過程を理解し、子ども一人ひとりの成長・発達に合わせ見通しを持った援助ができる。

- A○
- B○
- C○

保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び、子どもの発達を支援している。

- A○ 日中の様子や登降園時、保育参加などを通して共に支援を行えるようにした
- B○
- C○

身近な自然や素材を生かした保育環境を整え、様々な遊びを豊かに展開して保育をしている。

- A○
- B○
- C○

職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようと行動している。

- A○ 職員用のノートの使用
- B○ 何かあれば、5～10分で全員で集まる事ができるようにして、共通理解がとれるようにした。
- C○

日頃の保育定期的に振り返り、保育の質を向上しようと意欲がある。

- A○
- B○
- C○

職員会議、研修、他園との交流等を通して、自身の保育の課題や不足している専門知識・技術について「気づき」の機会を多く持とうとしている。

- A 日頃の事を話す事により、自分の意見や考えを伝える事ができるようになってきた。
- B
- C○

### 3 保育環境

保育園は、子どものための施設であり、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。

少人数や一人でじっくり遊びこむことができる環境、ホッと一息つくようなくつろげる環境、友だちと一緒に思いきり身体を動かすことができ、協同した活動ができる環境など、子どもが長時間生活する場として静と動の両方の環境を保障し、人と人との係わりを育むことができる保育環境を構成します。

更に、子ども自ら興味を持ち、関わってみたいと思うような玩具や遊具が十分準備されている、身近な動植物や自然事象に接する機会があるなど、興味・関心を持ち子どもが思わず関わりたくなるような保育環境も重要です。

保育者は、子どものための保育環境を構成すると共に、常に確認を怠らず、子どもの健康と安全に気を配り、子どもが安心して安全に過ごせる環境を園全体で整えます。

私たちは、園の中においては子どもの命が守られることを第一に、乳幼児期の子どもの発達をとらえ、子どもが遊んでみたくなるような環境を構成し、子どもが十分に楽しみ、満足感や充実感を得られると共に、「発見から発展へ」の教育的アプローチを含んだ環境を構成していきます。

子どもの成長に合わせた玩具、遊具、絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に遊び、主体的に遊びを展開できるように配慮されている。

- A○
- B○
- C○

施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、おもちゃ等の子どもが使用する備品類の消毒が行われている。

- A○
- B○
- C○

朝の時間・午睡時に消毒を行い、衛生面を保つ事ができた。

子どもたちが遊びこむことができる時間と空間の配慮、自由な遊びのゾーン（コーナー）等、子どもの自主性、自発性を尊重するとともに、子ども同士が関わり遊びが豊かに展開されるように工夫されている。

- A○
- B○
- C○

夕方の時間に手指コーナーを2歳児の部屋として、落ち着いて過ごす空間を作った。

子どもの生活空間において、設備備品等に手作りのものや天然素材等を取り入れるなどの工夫がなされている。

- A
- B○
- C○

手洗い場、机や椅子などは、子どもの体に合った大きさを調えられている。

- A○
- B○
- C○

友だちと好きなことをして落ち着いて遊べる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくと休むことやくつろげることができる空間がある。

- A
- B
- C○

絵本コーナーをゆったりとしたスペースとしていたが、玩具が沢山出ている時もあり、ゆったりとしたスペースにならない時もあった。

菜園やプランターの植物等、生活の中で緑を楽しむことができる工夫など身近な自然と関わるすることができる取り組みがされている。

- A
- B
- C○

沢山の種類の栽培はできなかったが、子ども達が身近に感じる育てやすい野菜を皆で育てた。秋・冬は日が当たらないので、何か違う方法を考えた・・・花。室内で豆苗。

外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす技能を発達させるための運動を行うことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭などが確保されている。

- A○
- B○
- C○

乳児の保育環境について、月齢や発達に配慮した乳児専用の空間が設けられているなど、乳児が安心して落ち着いた生活を送るための特別な配慮がなされている。

- A
- B○
- C○

活動を分けたり、絵本コーナーを0歳児のスペースと考えた。

リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境設定がされている。

- A
- B○
- C○

造形などは、落ち着いてきた

#### 4 保育内容

生まれてから就学前までの子どもたちの発達を理解し、個々の子どもの発達を見通し、乳幼児期に経験してほしい基本事項が全体的な保育の計画に示され、実践されていることが必要です。

保育園における保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、子どものすべてを受け入れ、その心身の状態に応じたきめ細やかな援助や関わりをしていくことを基礎として、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように保育を展開します。

このような保育の内容を、子どもの発達過程や発達の連続性を見据え、園の保育理念や保育目標のもと、保育計画を立て、計画に基づく保育を展開し、日々保育を振り返り評価し明日の保育に反映させることを繰り返すことで、保育の質の向上につながります。

園により、独自に目標を立て、創意工夫し様々な特色を持った保育を展開していきますが、基本は「子どものために、子どもを中心とした」保育を展開することです。「できる」「できない」という表面的な捉え方をするのではなく、子どもの実態を把握し、子どもと保育者との関わりの中で保育が展開されるように配慮することが重要です。保育者の適切な援助によって、子どもが自らやってみようとする意欲や興味関心、好奇心、探求心などの心情、考える力や認識力が培われ、その結果として、子どもが自己肯定感を豊かにもてるようになるのです。

このような保育を実践できるよう保育施設保育者自らが保育の質を高めていくことが、菊清会保育園共通の目標です。

保育者は、「子どもの最善の利益」を考慮し、保育課程で保育施設が目指している児童福祉の理念および園が目指す中長期的な目標を理解している。

A○  
B○  
C○

保育者は、保育課程を通して、展開したい子どもの育ちの道筋、子ども像を共有している。

子どもの発達や地域の特性を捉えて保育者全体で指導計画（年・期・月・週・日）を立て、計画に基づいた保育を  
実践し、定期的な評価・反省を行い、次の計画に反映させている。

A○  
B○  
C○

0・1・2歳の個人別指導計画は、個々の子どもの家庭環境を踏まえた成長記録・心身の発達、活動の実態に即して  
作成されている。

A○  
B○  
C○

児童票・保育日誌・園日誌・保健日誌等があり、子どもの成長や日々の活動を記録している。

A○  
B○  
C○

一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実態について話し合う会議を定期的かつ必要に応じて開催して  
いる。

A○  
B○  
C○

配慮を要する子どもの支援について、保育所全体で認識し、必要に応じて個別指導計画を立てて保育を実践し、家  
庭や専門機関と連携し適切に対応している。

A○  
B○  
C○

入園時に利用者の個人情報（入園前の子育て状況、発育状況等）や要望を把握し、定められた書式に記録してい  
る。

A○  
B○  
C○

園の自己評価や保育者の自己評価など、日ごろの保育を定期的に振り返る機会を設けている。

A○  
B○  
C○

園の保育内容や保育環境の向上・改善のため、保育者からの提案を生かしている。

A  
B○  
C○

園は異年齢で構成される場所であり、異年齢の触れ合いや交流を意図的に持っている。

A○  
B○  
C○

## (1) 活と遊びの中の教育

乳幼児期の子どもたちは、遊びを通して言葉や数、自然現象や科学、表現する力などを身に付けていきます。

この時期においては、保育者の温かい言葉かけやスキンシップ、子どもの成長発達に応じた様々な玩具や絵本と出会うことにより、人と関わる心地よさ、遊ぶことの楽しさを経験し興味関心を養っていきます。その後、子ども同士の関わり合いや協同する遊び、生活の中にある不思議を体験し、さらに心情・意欲・関心を培い、生きる力の基礎を体得していきます。

例えば、積み木遊びでは、積み木で同じ高さのものを作ことや、自分のイメージするものを作るために、積み木の大きさや形を見て、考え、積み木を選び、身長に重ね、等数や形の概念を学び、集中力を養います。また、友だちと一緒に理想の街を想像し毎日継続して積み木を重ねていくことで、友だちと協力することの大切さや、友だちを思いやる心、継続して取り組む忍耐力、完成させた達成感や充実感を学びます。時には積み木がこわれてしまい、挫折感を味わい、その後に再度チャレンジしようとする意欲を生みます。

このように園の中で、子どもたちは、生活と遊びを通して、様々な経験・体験を重ね、現在を心地よく生き生きと幸せであり、未来に向かって生きる力の基礎を培います。

子どもの好奇心、探求心、思考力などが育つよう、子どもが自ら興味を持って遊ぶことのできる保育を行っている。

- A○
- B○
- C○

子ども一人ひとりの置かれている状況を把握し、ありのままの姿を理解と見通しを持って受け入れ、子どもが安定感と信頼感を持って、自分らしさを発揮し、行動できるよう援助している。

- A○
- B○
- C○

季節の行事、小行事、誕生会等、子どもが季節感や文化などを体感できることで、保育施設での生活を楽しめる工夫をしている。

- A○
- B○
- C○

積極的に散歩や園外保育を実施し周囲の自然環境に親しみ、商店街や他の施設等を含む地域との交流を図るなど、自然を慈しみ、社会と関わることができる取り組みがされている。

- A○
- B○
- C○

乳児保育を行うにあたって、一人ひとりの情緒を育てることに重きを置き快適な環境と保育者の微笑みやゆったりとした話しかけ等が行われている。

- A○
- B○
- C○

幼児保育には、友だちの存在を認め、一緒に遊ぶことを楽しむことができるよう、協同する活動を取り入れている。

- A□
- B□
- C□

子ども一人ひとりの理解を深め、子どもの表現しようとする姿や話の内容を十分に受け止め、適切な言葉で答えながら、わかりやすく話せるようにしている。

- A
- B○
- C○

自分のやりたい事など言葉で伝える事が出来なくても表現ややりたい気持ちを受け止めていく事を大切にしてきた。

子どもが達成感をもって基本的な生活習慣を身に付けられるよう、子どもにわかりやすい方法で伝え、適切に援助している。

- A○
- B○
- C○

文化施設などの周辺施設・町会・地元商店街等と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。

- A□
- B□
- C□

## (2) 食育

園では、適切な食生活と食習慣の定着、食物の大切さ、そして食を通して他の人々との関わりの喜びや命の大切さを学ぶ食育に取り組んでいます。

園の給食は「大量調理施設衛生管理マニュアル」（厚生労働省）に基づき、適切な衛生管理、有害なもの又はその疑いがあるもの、過度に加工したものなどは避け、鮮度の良い衛生的な食材を選定し、旬のものを取り入れながら栄養価を考えて献立を作成しています。

子どもの味覚や乳幼児期の成長発達に合わせて、栄養価を考え、経常・硬さ・味付けなどを工夫し基本的には手作りで、素材の味を味わえるよう出汁の旨みを生かし薄味で提供しています。

食物アレルギーへの個別対応もきめ細やかに行い、子どもの安全を第一に考えた食事を提供しています。

また、園では、野菜等を子どもと一緒に育て、毎日の水やりや成長の観察、収穫や自ら収穫した野菜を調理し食べる喜び、時には栽培に失敗し枯れてしまうこと。無農薬のために虫がついて食べられなくなることなどの体験を通して、食べ物への感謝の気持ちを育てます。

園では、食育計画に基づき食育を推進し、生きるために必要な食事や人との関わり、食習慣やマナー、食べ物の大切さや栽培してくれた人への感謝の気持ちなど、食を通して様々なことを学んでいき

園の給食や目標が計画され、計画に基づき栄養士・調理員と保育士等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する取り組みを行っている。

A○  
B○  
C○

衛生管理マニュアルや給食マニュアルを作成し、衛生点検表による毎日の点検、専用のエプロン・三角巾・履物の着用など、衛生管理が徹底されている。

A○  
B○  
C○

食事摂取基準に基づき、乳幼児の健全な発育・発達の実態に沿った、栄養バランスの良い給食を提供している。

A○  
B○  
C○

無理やり食べさせることや身体を拘束することなく、子どもの気持ちに寄り添いながら食事の介助をしている。

A○  
B○  
C○

子どもたちが友だちや保育者との食事中的の会話を楽しみ、友だちと一緒に食べる喜びを感じながら食事している。	
A○ B○ C○	
個人差やその日の体調など個々の子どもの状態に合わせて量を加減できる、年齢（咀嚼力等）に応じた柔らかさや味付けなど細かい配慮を行っている。	
A○ B○ C○	
温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食事ができるなど、献立の趣旨にかなった適切な温度で子どもの食事のタイミングに合わせて給食が提供されている。	
A○ B○ C○	
子どもの視点に立った計画に基づき、クッキング保育、栽培、収穫したものを食べる等の食育活動を実施している。	
A○ B○ C○	
アレルギー対応については、アレルゲン食品の確認、献立の確認、誤食した場合の対応方法等、医師の診断書に基づき、保護者との定期的な話し合いの内容を確認している。	
A○ B○ C○	

### (3) 健康

園では、保健計画に基づき心身に健康に、成長発達を保障できるよう、日々の健康観察や衛生管理を行っています。

乳幼児は抵抗力が弱く様々な病気にかかりやすい時期です。

このため、毎日の子どもの健康観察を行い、快適に過ごせるよう清潔を保ち、安定した生活リズムをつくり、手洗い・うがいなど基本的な清潔の習慣を身に付けるよう援助しています。

一人ひとりの成長・発達を考慮しながら、日常てきな遊びの中で体力をつけ、遊んだ後は手洗いや着替えをして清潔を保ち、疲れた時は適切な環境の中でゆっくりと休みを取る。など、生活リズムや習慣を身に付けます。

健康診断の結果を保護者に知らせることや予防接種の情報等を知らせるなど、保護者と共に子ども健康管理を行います。園は集団生活であることを念頭に、感染症の早期発見と早期対応に努め、子どもの健康管理しています。

園においては、生活の中で、清潔であることの心地よさを感じ、元気に過ごすことができるよう、衛生管理・健康管理・健康教育に努めます。

保健（日常の衛生管理、感染症対策・与薬）に関するマニュアルがあり、保育者全員に周知徹底されている。	
A○ B○ C○	
調理職員・調乳担当職員・栄養士の月1回の検便、全保育者の採用前及び定期的な健康診断を実施しており、結果を適切に管理している。	
A○ B○ C○	
子どもの入園の際に、既往歴及び予防接種等の把握を行い、入園前健康診断を行っている。又はそれに代わる対応をしている。	
A○ B○ C○	
子どもに対し定期的（年2回以上）な健康診断。乳児に対しては乳児健診（月1回）が行われ、結果を保育者や保護者に伝達し保育に反映している。	
A○ B○ C○	
一日を通した生活リズムを把握し、個々の子どもに合わせて睡眠・食事・遊びがバランスよく整え、自己を十分に発揮し健康に過ごすことができるよう配慮している。	
A○ B○ C○	
排泄（おむつ交換）・着替え等の基本的な生活習慣は、きれいになった心地よさを感じることができるようゆったりと優しく言葉をかけ、次第に自分でできるようになることを意識して援助するなど、一人ひとりの子どもの状況に合わせる工夫をしている。	
A○ B○ C○	
与薬は、医師の指示に従い与薬依頼書や調剤提供書等に基づき行われ、与薬の際は、複数の目で確認を行い、与薬が適正に行われたことを確認することができるようになっている。	
A○ B○ C○	
感染症発見時には、施設内掲示やメールなどの配信等で保護者に伝達したり、園内の衛生管理を徹底するなど、保育者・保護者の協力や保育者の連携により拡大防止に努めている。	
A○ B○ C○	

## 5 安全管理

保育者は、常に危機管理意識を持って日々の保育活動を点検し、子供の健やかな育ちを支援する安全な環境を整備していく責務がある。

子どもは、遊びを通して身体的・精神的・社会的に成長していきます。成長過程では、子どもを取り巻く環境に対して様々な働きかけを行い、学習していきます。しかしながら、子どもの行動は、判断力や安全に対する認識が未熟であり、様々なリスクを含んでいます。

保育者は、子ども一人ひとりを十分に理解し、健全に発達していくために必要な環境を整備し、いつでもどこでも事故が生じる可能性があることを念頭に置いて、保育者全員で自己予防に取り組まなければならない。

園では、リスクマネジメントを徹底し、ヒヤリハットなどの事例を保育者全員で検証し、リスクの原因を探り、再発防止に向けて全保育者で取り組むことのできる組織になっている。

事故や災害に適切に対応するマニュアルが作成され、全職員に周知されている。	
A○	
B○	
C○	
個人情報の管理について、保育者全員で共通認識され、適切な管理が行われている。	
A○	
B○	
C○	
小さなケガであっても、状況把握を行い、保護者に報告されている。	
A○	
B○	
C○	
午睡の際は、一人ひとりの専用の布団が用意され、午睡チェックを行い、うつぶせで寝ているときは体位を変えるなど、SIDS防止の取り組みを行っている。	
A○	
B○	
C○	
遊具の安全点検や保育環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	
A○	
B○	
C○	
保育する際は、少なくとも2名以上の保育士が配置され、緊急時にも対応できる職員体制を整えている。	
A○	
B○	
C○	

子どもの体調・表情・ケガ・食欲・清潔面・情緒面等を観察し、虐待の事実または疑いがある場合は、組織として速やかな対応ができるよう体制が整っている。

AO  
BO  
CO

その日の子どもの様子や保育における安全管理等について、子どもの行動を予測し、職員同士がアイコンタクトやお互いに声を掛け合うなどのコミュニケーションにより組織的に保育が実践されている。

AO  
BO  
CO

防災計画を策定し、避難訓練・消火訓練を基準どおり実施している。

AO  
BO  
CO

## 6 保護者支援・地域の子育て支援

保育園における保護者支援・子育て家庭支援は、「子どもの最善の利益を顧慮し、子どもの福祉を重視すること」です。

子どもが今を幸せに生き、未来を作り出す力の基礎を養うことができるよう、保育園の専門職である保育士・栄養士・看護師等の職員が協力して、保護者や子育て家庭の支援を行います。

子どもの数だけ育ちにも個性があり、子育ては一様にいかないものです。子どもの成長を共に喜ぶこと、悩みがあれば一緒に考えること、子どもの情報を細やかに伝えること、保護者の置かれている状況やその思いを受け止めること、保育の意図を伝え保育実践の見本を見せることなど様々な方法で保護者と子どもの安定した関係や、保護者の子育てへの自信や意欲を高めることに努めます。また、地域の子育て支援の拠点として、体験保育や子育て相談、子育て広場などの保育施設に在籍していない子育て家庭にも保育施設や園庭を開放し、保護者同士の交流の場を設定したり、子育ての相談を受け付けたり、必要な子育て情報を提供していきます。

私たちの園が、子どものために保護者や地域の子育てを支援することを基本とし、園と保護者や地域が話し合い、お互いの気持ちを認め合い、共に協力して、地域全体で子どもを育てる環境づくりに努めることを大切にします。

保護者懇談会や園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりなどを活用し、保育指針や日々の保育の意図、子どもの園での生活の様子、また職員の状況など家庭に紹介している。

- A○
- B○
- C○

登降時間の会話や連絡帳などの日々のコミュニケーションや行事などあらゆる機会を通じて保育の意図、子どもの状況などを保護者と綿密に連絡を取り合っている。

- A○
- B○
- C○

苦情解決、第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を踏まえた保育の改善について保護者に伝えている。

- A○
- B○
- C○

保護者の話に傾聴し誠実に答える姿勢を持ち、保護者と職員相互で子どもの保育に関わる課題を共有し、保育実践や園運営に貸す工夫がある。

- A○
- B○
- C○

保護者懇談会や行事などで保護者同士の話し合いの場や共同で取り組み活動を提供したり、保護者の自主的な活動に協力するなど、保護者間の連携を支援している。

- A○
- B○
- C○

地域における子育て支援の拠点となるために、地域の家庭を対象にした育児講座の開催、子育てに関する講習会への職員の派遣などの子育て支援事業に積極的に取り組んでいる。

- A□
- B□
- C□

園の活動や行事に地域住民に参加してもらうなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。

- A☑
- B○
- C○

マンション内のキッズルームを借りて子育て支援として行っている。

子どもの成長の連続性を保障するため、子ども同士の交流や職員間の情報交換など、小学校と連携を図っている。

- A□
- B□
- C□

職員は区・市や地域で行われているひとり親家庭支援、障がい児支援、養育困難家庭の支援、その他の専門的支援施策について理解し、必要とする家庭を支援につなぐ役割を果たせるように学んでいる。

- A☑
- B☑
- C☑

## 7 運営体制

保育の質の確保・向上の中心となるのは人材であり、職員が安心して保育に従事し、常により保育に向かっ  
て取り組む姿勢を支えるためには、運営事業者の経営が健全に行われていることが不可欠です。

適切な広さや設備、子どもや職員の動線を考慮した保育室が確保され、保育に必要な備品や遊具・玩具  
等の整備・充実には保育園職員の意見が反映され、子どものための保育が展開する保育環境が整えられる  
よう、保育に必要な経費が確保されていなければなりません。

また、職員が経験年数や年齢に応じてバランスよく必要な人数が配置されていることは、職員の保育へ  
の意欲や自己啓発への取り組みを支え、保育の質の向上につながります。さらに、安心して子どもに接す  
ることができるよう、社会保障や雇用条件等、労働条件が整備されていることも重要です。

内部の研修のみならず外部の研修にも積極的に参加し、情報交換を通して保育技術や知識を深める機会  
が確保されていることは保育の質の向上につながります。

運営事業者として、熱意と積極性を持っており、保育に対する理念や方針が明確である。	
A <input checked="" type="checkbox"/>	学ばなければいけない事が多く、職員にもしっかりと伝えられるように努力していきたい。
B <input checked="" type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
園を運営していくにあたっての現場での意見が、経営者層の判断材料となる組織である。	
A <input type="checkbox"/>	
B <input type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
職員の雇用条件、就業規則などが明確である。	
A <input type="checkbox"/>	
B <input type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
職員が安定して働き続けることができる労働条件（給与水準・休暇制度・休憩時間）などが整備されている。	
A <input type="checkbox"/>	
B <input type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
職員の自己啓発やリフレッシュのための労働環境（人員配置・時間の保障など）が整備されている。	
A <input type="checkbox"/>	
B <input type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
職員のワークライフバランスに関する視点を持ち、具体的な取り組みが実践されている。	
A <input type="checkbox"/>	
B <input type="checkbox"/>	
C <input type="checkbox"/>	
保育運営におけるリーダーシップを発揮するにあたり、施設長・主任の経験年数や年齢が適切である。	

A○ B○ C○	
職員の経験年数や年齢などについて、均衡が取れた組織体制となっている。	
A○ B○ C○	
栄養士や看護師などの専門職を適切に配置している。	
A○ B○ C○	看護師は、連携園の橋本りんご保育園の看護師に何かあった時には、話をする。
職員が安定的に就業し、障害を通じて専門性を向上できるよう、期限の定めのない雇用形態となっており、職員の雇用の安定が図られている。	
A○ B○ C○	
「2 職員に求められる資質」を身に付けるため、通常業務内において研修やOJTなどの機会があり情報交換ができるよう計画的に時間を確保し、職員体制を整えている。	
A○ B○ C○	

### Ⅲ 保育の質の向上のために行う取り組みの視点

園が子どもを中心とした理念を実現するために次の視点を踏まえ園職員・保護者・地域と共に保育の質の向上に取り組んでいきます。

法人	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保育理念・保育方針を明示する。</li><li>・ 法人内施設間の専門性を強める仕組みを作る。</li><li>・ 子どもを中心とした保育の質の向上への取り組みを行う。</li></ul>
園長 主任保育士	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもの視点での保育環境の整備を行う。</li><li>・ 職員の労働条件・労働環境・賃金などの安定を図る。</li><li>・ 保育者としての専門性を高める意欲を支援する。</li><li>・ 保護者が必要とする運営や保育に関する情報を公開する。</li><li>・ 法人内施設間で連携できる環境を整備する。</li><li>・ 恒久的な施設運営のため安定した経営を行う。</li><li>・ 地域に根ざした施設運営を行い、地域と園の適切な関係を保つ。</li></ul>
保育者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもを中心とした保育に意欲的に取り組む。</li><li>・ 一人ひとりの子どもの気持ちや発達を理解し、寄り添う保育を行う。</li><li>・ 専門性を高め、経験を豊かにし、保育の質を高める。</li><li>・ 子どもの育つ姿や保育の意図を伝え、保護者を支援する。</li><li>・ 地域に根ざした保育運営を行う。</li><li>・ 保育の意図や子供の育つ姿を伝え、在宅子育てを支援する。</li></ul>
保護者 地域	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どものための保育や保育の専門性を理解することができるようにする。</li><li>・ 保護者同士が繋がり、子育てに関する情報が共有できるようにする。</li><li>・ 必要な情報を収集し適正に利用する。</li><li>・ 園の保育に協力し、参画・参加できるようにする。</li><li>・ 子どもの安全を見守ることができるようにする。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育施設職員と子どもの育ちを共有し、子育てに見通しや希望が持てるようにする。</li></ul>
--	---